

お知らせ

記者発表資料 平成27年5月14日

中海の赤潮発生状況について

～確認日数は「近年増加」、発生範囲は「縮小」～

中海では、富栄養化現象として赤潮（プランクトンの異常増殖）が毎年確認され、時期は概ね10月から翌年5月に集中しています。なお、赤潮による魚介類の斃死等の影響は現在まで確認されておりません。

このたび、出雲河川事務所では、過去の河川巡視記録から赤潮発生状況の変化をとりまとめましたのでお知らせします。（別紙参照）

また、平成27年の赤潮発生状況につきましては、国土交通省出雲河川事務所のウェブサイトにて、随時情報を提供しておりますのでご覧ください。

※赤潮とは、水中のプランクトンが異常増殖することで、水面が着色する現象です。

※様々な環境要因（窒素・リンの増加に伴う水域の富栄養化、海流等による水域への赤潮原因種の移入、日照、水温、塩分濃度など）が赤潮原因種にとって好適なものになるとプランクトンが大増殖を引き起こし、赤潮が発生すると考えられています。

※赤潮による影響としては、大量に出現したプランクトンが死滅し、腐敗・分解されることによる水質悪化、大量に出現したプランクトンによる^{えら}鰓づまり、一部の赤潮原因種が生産する毒性物質（すべての赤潮原因種が有毒ではありません）による魚介類の斃死などがあります。

提供先

島根県政記者会、米子市政記者クラブ

問い合わせ先

国土交通省 出雲河川事務所 水環境課

電話 0853(20)1763(直通)

副所長

にし ひろゆき
西 博之

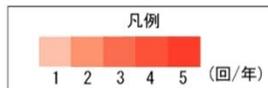
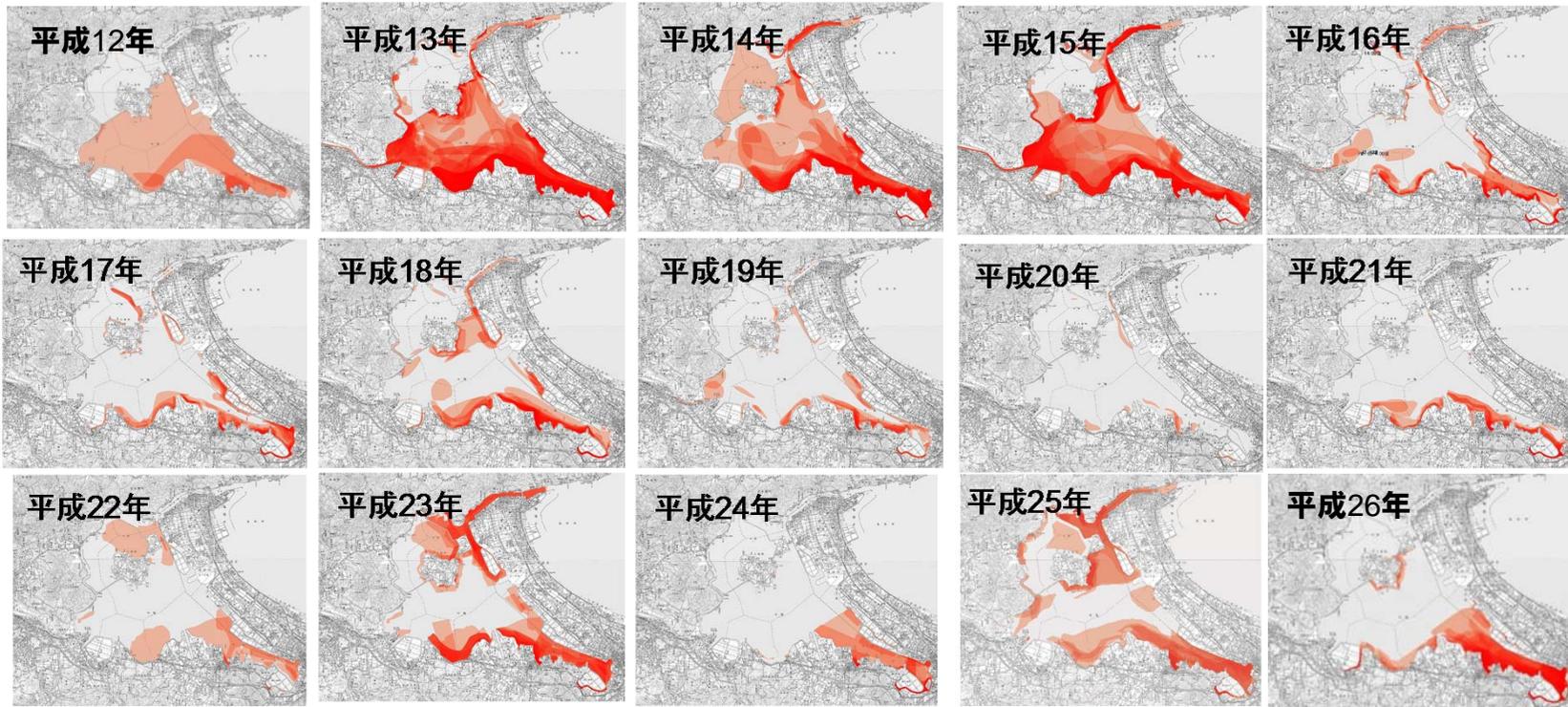
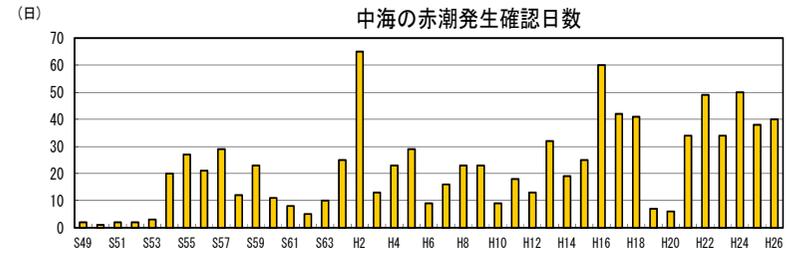
【担当】水環境課長

やまがた こういち
山形 浩一

◆ 中海の赤潮発生状況について

■ 赤潮発生状況の変化

- ・赤潮の確認日数は、平成16年頃をピークに減少傾向にあったが、平成21年以降増加し、近年は同程度となっている。
- ・赤潮の発生範囲は、中海で全体的であったものが、近年は主に米子湾および中海南岸における局所的なものとなっている。
- ・米子湾においては比較的発生頻度が高い。



【中海における赤潮の発生分布(平成12年以降)】